

〈教育ノート〉

授業における自己の振り返りに関する研究

——社会福祉援助技術演習の授業を通しての考察——

片 山 弘 紀*

Research on Self-Retrospect in Classroom Learning

——An Analysis Made during Seminar in Social Work Support Practice——

Hiroki Katayama

要旨：本研究では、授業において自己を振り返ることの意味について考察するものである。授業において毎回、学生は振り返りシートを記入し、自己の振り返りを行った。このことは学生に授業内容を再び思い起こさせ、それによって体験を記憶に留めたり、自己が何を感じていたのかについて考えたりできるきっかけとなっている。

調査によって、このように授業において自己を振り返ることは、授業内容の定着や自己への気づきといった意味があることが示された。

Abstract : In this research we studied the significance of self-retrospect in classroom learning.

Using retrospect sheets, students were engaged in self-retrospect during each classroom session.

This exercise made them recollect what they had learned whereby giving them a clue to recall their experiences and to contemplate on what they themselves were feeling.

The research demonstrates that such self-retrospect in classroom learning significantly facilitates lasting understanding of what has been learned as well as of self-awareness.

Key words : 自己の振り返り self-retrospect 気づき awareness 社会福祉援助技術演習 Seminar in Social Work Support Practice

はじめに

授業において自己を振り返る機会を持つことは重要である。なぜなら、振り返りを行うことによって、授業内容の定着や新たな自己への気づきや発見が生まれるからである。

振り返るとは、自己が考えたこと、行ったことを改めて思い起こし、自己の発見や気づき、

再確認をすることである。授業で体験したことや気づいたことを改めて思い出すことで、授業内容を確認できたり、その確認から反省が生まれたり、新たに気づくことが湧いてきたりして、次回の授業へと繋げることができるのである。また、授業だけにとどまらず、自己の新たな成長を促す可能性がある。

このように自己を振り返る時間を持つ意味について、実際に学生自身がどのように捉えているのであろうか。このことについて探求を進め

*関西福祉科学大学 非常勤講師

るために、社会福祉援助技術演習において、自己の振り返りをする時間をもった。

振り返りの方法として、振り返りシートを用いながら進めていった。授業冒頭の時間を使い、前回から今回にかけての日常生活で気づいたことを振り返りシートに記入をさせる。次に、前回提出済みの振り返りシートでポイントとなるところを選び、教員が匿名にて内容を紹介する。そして、前回の授業で欠席者がいた場合は、彼等に対するフォローアップと、前回の出席者の振り返りを兼ねて、全員が前回欠席者に対して、前回の授業内容のシェアを行う。授業の最後には、授業について学んだことや気づいたことについて振り返りシートに記入をさせる。このようなプロセスを経て、自己の振り返りを進めていくのである。

本稿では、この振り返りをするのが学生にとって、どのような意味をもたらしたのかについて、アンケート調査を元に考察を行う。

I 目的

授業内容の定着と自己への気づきを深めることを目的とし、授業において自己の振り返りを行った。この取り組みが、どのような結果を学生にもたらしたかについて考察をする。

II 方法

1. 調査対象と調査方法

調査対象は、社会福祉専攻の学生で筆者の社会福祉援助技術演習Ⅰを受講した2クラス。

前期授業終了後、その場で振り返りについてのアンケートを配布、回収を行い、22名から回答を得た。

2. 調査項目

調査項目として、授業内容に対する振り返りシートの記入、前回から今回までの振り返り、振り返りの共有、振り返りシートの内容、振り返りシートの内容の良かった点・改善点、欠席者に対するフォロー、毎回全員で授業の振り返

りのシェア、授業での振り返りの効果についてであった。

なお、「振り返りシートの内容の良かった点・改善点」、「授業での振り返りの効果」については自由記述で行った

3. 振り返りシートの内容(表1)

授業において、表1の振り返りシートを用いた。

表1 (振り返りシート)

振り返りシート	
1.	前回から今回までどんな気づきや発見、体験、起きてきたことがありましたか？(どんな些細なことでもかまいません)
2.	今日の実習を通じての振り返りを次の文章を完成する形で行ってください。 ・私が学んだのは ・私が気づいたことは ・私が驚いたことは ・私がうれしかったことは ・私に必要だとわかったことは ・私がこれから実行しようと決めたことは ・その他、気づいたこと、考えたこと、書いておきたいことは、

III 結果と考察

1. 授業終了後の振り返りシートの記入の意味について(表2)

「授業終了後の振り返りシートの記入の意味」について「とてもある」12人(37%)、「ややある」17人(57%)と答えている学生が9割を占めており、振り返りシートを記入すること

に対する意味があると思っている学生が多いことが分かる。

その理由としては、要約をしてみると、「授業を思い出せる」「授業の確認ができる」「記録に残せる」「今後に生かせる」といった復習になっていることをあげているものが多い。

一方、「どちらともいえない」2人（6%）、「あまりない」1人（3%）と答えている学生は、1割弱と少数であった。その理由としては、「毎回書くだけで終わってしまった」「適当にかいてしまう」「頭にはいつているから書く必要がない」があげられた。

授業終了後に行う振り返りシートを記入するそのものの行為は、学生にとっては授業の復習といった意味があることが伺えた。

表2 授業終了後の振り返りシートの記入の意味について

とてもある	ややある	どちらともいえない	あまりない	全く無い
12(37%)	17(53%)	2(6%)	1(3%)	0(0%)

2. 授業の前半で、前回から今回までであったことについて振り返りをし、振り返りシートに記入をすることの意味について（表3）

「毎回、授業の前半で、前回から今回までであったことについて振り返りをし、シートに記入をすることの意味」について、「とてもある」10人（31%）、「ややある」16人（50%）と答えた学生が8割を占めている。その理由として要約すると、「自分の生活を思い起こせる」といったもの一番多く、その他「自分を客観視できる」「学びを日常生活へ活かす」「相談や質問ができる」といったものがあげられた。

一方、「どちらともいえない」3人（9%）、「あまりない」3人（9%）が2割弱を占め、その理由として、「書くことがない」が多く、その他「思い出したくないこともある」「書く必要性を感じない」といった理由があげられた。

授業の前半に、自分の日常生活を振り返るこ

とについても上記の理由から意味があると思っている学生が多くいることが分かる。一方、必要性を感じない学生の中には、前回から今回までの間に思い出したくない出来事があった場合、あえてそれにふれたくないという気持ちが現れていることが分かる。

表3 前回から今回までの振り返りの意味

とてもある	ややある	どちらともいえない	あまりない	全く無い
10(31%)	16(50%)	3(9%)	3(9%)	0(0%)

3. 匿名にて振り返りシートの内容を授業の前半に講師が発表し、個人の振り返りを全員で共有することの意味について（表4）

「個人の振り返りを全員で共有すること」について、「とてもある」15人（46%）、「ややある」13人（40%）（表4）と答えた学生が9割弱を占める。

その理由として、「他の意見を知ることができるから」が多く、その他「他人の話を聞くのが楽しい」「悩みごとに対する共感」「視野が広がる」「自己成長」といった理由があげられた。

一方、「どちらともいえない」2人（6%）、「あまりない」1人（3%）であった。その理由として「特に関心がない」があげられた。

個人の振り返りを全員で共有をすることは、他の参加者の意見を聞く機会になり、それは自分との違いやさまざまな観点を、きっかけになっていることが分かる。

表4 振り返りの共有

とてもある	ややある	どちらともいえない	あまりない	全く無い
15(46%)	13(40%)	2(6%)	1(3%)	0(0%)

4. 振り返りシートの内容の良かった点、改善点について（表5、6）

良かった点、改善点について要約をすると、

良かった点 (表5) については「授業内容、一週間の出来事を思い出せる」15人と最も多く、次に「質問項目が分かれていて書き易い」13人「自己を見直せる」4人といった意見が多かった。

改善点 (表6) については、「質問項目が類似している」15人と最も多く、次に「質問項目の量が多い」(4人) といった意見が続いた。

いろいろな観点からの質問や文章の書き出し形式に作ってあることは、学生にとっては書き易さがあると思われる。

しかし、一方で、質問の多さや質問項目によっては同じような印象を受けるものもあり、質問項目の内容と量の改善が今後必要である。

表5 振り返りシートの良かった点

授業内容、一週間の出来事を思い出せる	15人
質問項目が分かれて書き易い	13人
自己を見直せる	4人
その他	4人

表6 振り返りシートの改善点

質問項目が類似している	15人
質問項目の量が多い	4人
その他	4人

5. 欠席がでた場合、欠席者に対するフォローと前回の出席者の振り返りをおかねて、前回の振り返りを参加者同士で行うことの意味について (表7)

前回、どのような授業をやったのかについて、欠席者に対して、出席者全員が授業内容については発言をする機会をもった。このことに対しての意味についての質問項目である。

「とてもある」15人 (46%)、「ややある」13人 (40%) と答えた学生が、9割弱%を占めた。その理由として、「欠席者も出席者も授業内容が分かる」が最も多く、他に「仲間意識や一体感を感じることができる」「意見をまとめ

発表の練習の場になる」といった意見があった。

「どちらともいえない」4人 (12%) と答えた学生は、その理由として「先生がやった方がいい」「数人に説明をしてもらおう」「欠席者に授業内容があまり理解されていない気がする」といったものがあげられた。

この出席者の振り返りを含めた欠席者に対するフォローは改善の余地はあるものの、意味がないと感じている学生はいなかった。このことは、学生自身にとって意味があり、お互いを助け合う気持ちがあるからではないだろうか。

表7 欠席者に対するフォロー

とてもある	ややある	どちらともいえない	あまりない	全く無い
15(46%)	13(40%)	4(12%)	0(0%)	0(0%)

6. 欠席者がなくとも、全員で前回の振り返りをした方がいいと思うかについて (表8)

欠席者がいなくとも、全員で前回何を授業でやったかについて発言をする振り返りの必要性についての質問項目である。これについては、「そう思う」4人 (12%)、「やや思う」、11人 (34%) で、「どちらともいえない」11人 (34%) で、「あまり思わない」6人 (18%) と、意見にばらつきがあった。「そう思う」「やや思う」の主な理由としては、「忘れていたことを思い出す機会になる」という意見が多い。

一方、「どちらともいえない」「あまり思わない」の主な理由としては、「授業の時間がとられる」が最も多く、他「違うことがしたい」、「振り返りシートで既に振り返っている」といった意見があげられた。「やや思う」と答えた理由の中にも、若干ではあるが、「簡潔に」「違うこともやりたい」という意見があった。

欠席者がいない場合の振り返りをするに対しては、意見にばらつきがある。あえて、振り返りの時間をもつより、違うことをしたいといった思いがあるのかもしれない。

表8 毎回全員で授業の振り返りのシェアの必要性

そう思う	やや思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	全く 思わない
4(12%)	11(34%)	11(34%)	6(18%)	0(0%)

8. 振り返りの時間を授業において持つことに関する効果について(表9)

意見を要約してみると、「授業内容が身につくやすくなる」(13人)で最も多く、次に「自己を見直せる」9人、「学びを日常生活に生かす意識がもてる」(7人)といったことがあげられた。

このことから、振り返りの時間を持つことは、授業内容を身につけることやその学びを日常生活で活用することを意識するきっかけ、自分のことを考えることができるといった効果が見えた。

表9 授業における振り返りの効果

授業の内容が身につくやすくなる	13人
自己を見直せる	9人
学びを日常生活に生かす意識がもてる	7人
その他	4人

IV まとめ

本研究は、授業内容の定着と自己への気づきを深めるために、授業において自己の振り返りをする意味について検討することを目的としたものである。

調査結果から、振り返りをすることは、授業の復習や自己の日常生活を振り返ることができるといった意味があると思った学生が多くいたことが分かった。それは、学生が日常生活の中にそのようなことを意識することもないことが

伺える。そして、個別の振り返りをクラス全員で共有をすることは、自己と他者との違いや様々な観点を学ぶきっかけになっていることも分かった。このことは、実習や社会に出たとき、様々な価値観を持った人たちを理解する上で必要なことであろう。

また、欠席者に対するフォローについては、改善の余地はあるものの、意味がないと感じている学生はなく、お互いを助け合う気持ちが働いているといえる。参加者同士の支え合いの意識を育むきっかけにもなったと思われる。そしてそれは、欠席者がいない場合の振り返りをする必要性の意見にばらつきが多いことから伺えるのではないだろうか。

このようにみえてくると、授業において自己の振り返りをすることは、授業内容を身につけることや自分のことを考えることができるといった効果があり、意味があることと考えてよいのではないだろうか。またそれは、実習や社会に出てから、よりより援助を生み出す可能性へと繋がるのではないかと思うのである。

そして、社会福祉といった分野にとどまらず、人生において自分を振り返りながら生きていくということは、多忙な日常に埋もれることをなく、生きる上で必要なことではないかと思うのである。

今後の課題としては、質問の量や項目の改善、欠席者がいない場合の振り返りのシェアの検討を行い、よりよい振り返りの機会を多く創っていきたい。

参考文献

人間教育研究協議会編『振り返り－自己評価の生かし方－』、金子書房、1996
 岡本晴美「『社会福祉援助技術演習』における学生支援に対する一考察」、福祉教育開発センター紀要、2004